

3. 地域の住民が安心して暮らせる機能の整備

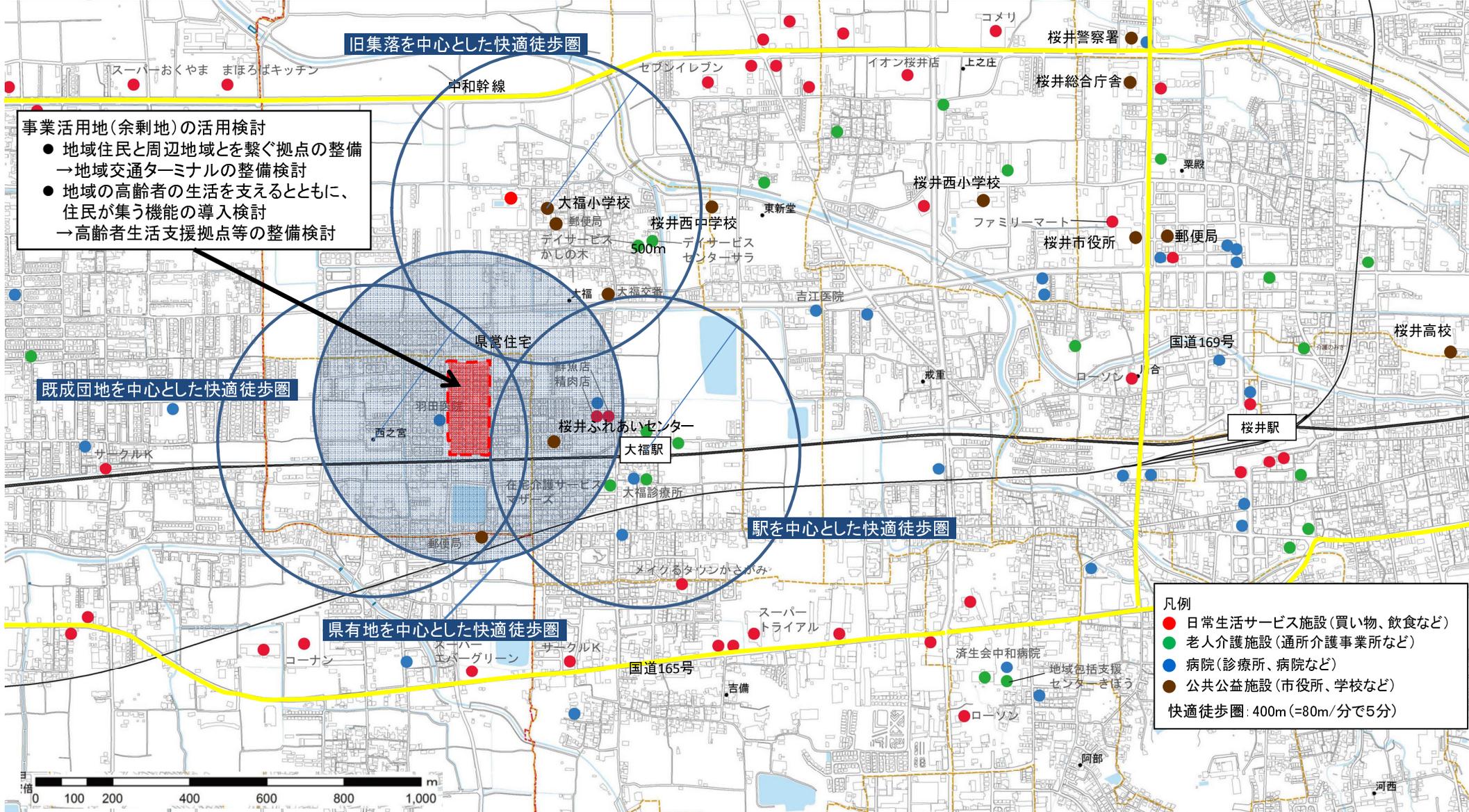
「暮らしの基本必要機能」から見る大福駅地域の特徴

- 徒歩圏内では充足できないが、周辺地域まで足をのばせば充足。
ただし、周辺地域への主な交通手段は自動車のみ
- 地域全体としてはコミュニティバランスがとれているが、様々な世代・世帯が居住する各コミュニティ間の連携が不足



地域の住民が暮らしやすい「地域」に向けて

- 高齢者であっても徒歩圏外の生活機能施設等を気軽に利用できる環境整備
→「地域交通の確保」で検討
- 地域内の住民が集い、気軽に利用できる仕掛け・仕組みづくり
→ 高齢者を中心とした地域住民の「集い」の場と交通ターミナルとの連動



事業活用地(余剰地)の活用検討

- 地域住民と周辺地域とを繋ぐ拠点の整備
→ 地域交通ターミナルの整備検討
- 地域の高齢者の生活を支えるとともに、
住民が集う機能の導入検討
→ 高齢者生活支援拠点等の整備検討

凡例

- 日常生活サービス施設(買い物、飲食など)
- 老人介護施設(通所介護事業所など)
- 病院(診療所、病院など)
- 公共公益施設(市役所、学校など)

快適徒歩圏: 400m(=80m/分で5分)

- 事業活用地への導入機能の見極め → 周辺施設等へのヒアリング等を通して更なる精査
- 事業活用地(県営住宅建替事業を含む)の余条件の設定 → 余剰地活用地の配置, 大きさ, 動線計画等

まちづくり包括協定に基づき、県と市との協働で、大福地域の「暮らしの機能」の充実に向けた検討を実施